

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年6月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502181		
法人名	株式会社 グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテトタウン南の沢		
所在地	札幌市南区南沢1822-63 (電話) 011-572-9661		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年6月25日	評価確定日	平成19年7月6日

【情報提供票より】(平成19年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年10月1日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計 9人
職員数	10人	常勤5人, 非常勤5人, 常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000~19,000円	その他の経費(月額)	11,000円 (暖房費11月~3月) 5,000円
敷金	(有) (1ヵ月分)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900円	

(4) 利用者の概要(5月21日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	3	要介護2	4
要介護3	2	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 78.55歳	最低 66歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団「五輪橋内科病院」、川沿中央医院、こじ歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ポテトタウン南の沢は、自然環境に恵まれた住宅地に位置しており、建物は木造のアパートを改装したものであるが、共用空間は、明るく開放的で、大きな窓から四季折々の風景が見渡す事が出来、木製の家具も配置され、自室の延長のような居心地の良さを演出している。運営者の方針で家賃は低額に設定されており、利用者は安心して生活を営むことができる。熱意のある管理者を中心に家庭的なケアが行われており、利用者には、一人ひとりの趣味や得意分野を発揮してもらい、草花を植えたり、家庭菜園でトマトやきゅうりを育ててもらったり、折り紙、針仕事等をお願いするなどして、職員は脇で支えながら感謝の言葉を伝えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の自己評価の実施には職員全員で取り組み、外部評価の結果も確認したが、外部評価の結果を踏まえて、具体的に改善に取り組むまでには至らなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の実施には職員全員で取り組んでいる。今回のサービス評価の結果を参考にして、サービス向上に生かしていくことを全職員が理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、現在まだ2回しか実施されていないが、ホーム側からの報告とともに、参加者からの意見・要望を受け、双方向的な話し合いを行っている。今回のサービス評価の結果を次回の運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、さらに、サービス向上に生かしていくつもりである。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めており、玄関に苦情受付箱も設置している。しかし、現状ではあまり活用されていないので、家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会作りのために、現在設置されている苦情受付箱の他に無記名での意見箱を設置していく。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、餅つき大会やクリスマスなどの地域行事には積極的に参加している。外食の際は近隣の食堂を利用するなど地域との交流に努めている。今後は参加するだけでなく、毎週行われている地域交流会や運営推進会議等を通じ、地域の方々に、ホームの行事(クリスマス会、ひな祭り等)に参加していただくよう呼びかけもしていく。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、実践していく役割を反映した理念にするために、従来の理念に、「住み慣れた地域での安心した暮らし」を加えた新しい理念をつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の新規採用時の研修に理念を伝え、理解してもらっており、毎月の月例会では、職員全員で理念を唱和しているが、理念の意義を全員が理解し、日々の実践で活かすまでには至っていない。	○	理念を実践で活かせるように、毎月の月例会では全職員に対して、理念の意義を確認し、実践に活かす話し合いを持つことで、職員全員が理念を理解し、日々の実践の中で具体化していくことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、餅つき大会やクリスマスなどの地域行事には積極的に参加している。外食の際は近隣の食堂を利用するなど地域との交流に努めている。	○	ホーム開設から4年目を迎えるので、今後は参加するだけでなく、毎週行われている地域交流会や2ヶ月ごとに開催される運営推進会議等を通じ、地域の方々に、ホームの行事（クリスマス会、ひな祭り等）に参加していただくよう呼びかけをしていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施には職員全員で取り組んでおり、外部評価の結果も確認しているが、外部評価の結果を踏まえて、具体的に改善に取り組むまでには至っていない。	○	評価の意義の理解と活用に関して、会議や個々のミーティングを通し、全職員の共通理解を深めていくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、現在までに2回実施されている。ホーム側からの報告とともに、参加者からの意見・要望を受け、双方向的な話し合いを行っている。	○	今回のサービス評価の結果を運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、さらに、サービス向上に生かしていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市の担当者を訪問するなどして月2回は情報提供を行っており、市の担当者とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の状況について話し、緊急時には電話連絡し、毎月1回「主治医の診断・所見」と「介護担当者の感じた変化の要点」を郵送しているが、ホーム便りは3ヶ月に1回の発行であり、出納明細については家族の来訪時の確認で、定期的に報告はしていない。	○	今後は、毎月1回、定期的に金銭出納帳のコピーと、ホーム便り(写真を中心とした簡潔な内容のもの)を郵送することが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めている。玄関に苦情受付箱を設置しているが、投入用紙には記入者の名前と利用者との関係を明記しなければならず、あまり活用されていない。	○	家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会作りのために、現在設置されている苦情受付箱の他に無記名での意見箱の設置が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため職員の異動はほとんどない。職員は全て利用者及び家族と顔なじみである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で、毎月1回定期的に月例会での勉強会が行われているが、現在、勤務ローテーションや費用の関係もあり、職員の育成のための計画的継続的な内部研修・外部研修プログラムは実施されていない。	○	まずは、勤務ローテーションに無理がないような半日程度の研修に1名からでも参加させ、研修後に、報告書等で全職員と研修成果を共有していくなど、無理のない範囲で研修の機会を確保していくことが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、管理者が、2ヶ月に1回、管理者研修会の交流会に参加しているが、全職員が地域の同業者と交流を深めるまでには至っていない。	○	管理者研修会の交流会には職員も参加できるので、まずは、勤務上都合のつく職員が参加し、その成果を全職員と共有することから始めていくことが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族等にホームを見学してもらっている。また、利用開始後には利用者と職員がゆっくり話をして馴染みの関係をつくっている。	○	サービス利用開始前に、本人及び家族に、利用者や職員と一緒に食事をしてもらったり、可能ならば、宿泊してもらうなど安心し、納得しながらサービスを利用してもらえる関係をつくっていくことを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対して、人生の大先輩として敬う気持ちを忘れないようにしている。利用者の思い出話や経験談を話してもらうことで職員も学ぶことが多い。利用者には、折鶴でホームの共用空間を飾ってもらったり、山菜を取ってきてもらい、料理したものを全員でいただくなど共に過ごし支えあう関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりの中で、会話や表情から一人ひとりの思いや意向について関心を寄せ、把握しようと努めている。	○	地域性もあり、冬場は外出機会が少なくなるので、利用者が外に行きたいのではないかと、運動をしたいのでは、など、利用者が口に出さずとも、会話や表情から察して、外出に誘ってみたり、一緒に軽い体操をするなどの試みを期待したい。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の月例会で、利用者が自分らしく暮らせるように、家族や関係者の気づきや意見を反映した介護計画を、職員全員で話し合いながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者、家族の要望を取り入れながら、利用者の日々の状態を記録し、職員間で報告して、基本的には3ヶ月に1度、定期的に介護計画の見直しを行っている。	○	利用者の日々の細かな状態の変化を毎月の月例会で話し合い、職員間でより一層のコミュニケーションを深め、定期的に介護計画の見直しをしていく事を期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	主治医と連携を取りながら、利用者や家族の状況や要望に応じて、通院や送迎などの必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じて、地域の協力医やかかりつけ医への受診、通院介助を行ったり、必要に応じて訪問診療に来てもらうように医療機関と関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として出来る事、出来ない事を明確に説明し、重度化のおそれの見えた場合、早急に家族や関係者と話し合いを持ち、統一した方針で対処するようにしている。	○	本人、家族、医師、事業者、関係者等の考え方や意向がずれたまま重度化を迎えないように、出来るだけ早期の段階から終末に対する対応や支援についての話し合いを持つことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念の「自分らしさや誇りが持てる暮らし」を实践し、日常的に利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その人の体調に配慮し、起床や睡眠も本人を尊重した対応を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の好みを把握して相談しながら献立を作成し、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事出来る雰囲気づくりを大切にして、下ごしらえや、食事の後かたづけも利用者と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状では月、金の週2回の入浴日の他に、利用者の希望があれば、臨機応変にシャワー浴も出来るようにしている。	○	現状の月、金の週2回の入浴日から、段階的に月、水、金の週3回の入浴日とし、利用者の希望があれば今後もシャワー浴を積極的に取り入れていく事を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味や得意分野を発揮してもらい、草花を植えたり、家庭菜園でトマトやきゅうりを育ててもらったり、折り紙、針仕事等をお願いしたりして、職員は脇で支えながら感謝の言葉を伝えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩だけでなく、買い物やお茶、外食など希望に応じて出かけたり、通院時に利用者の健康状態をみながらドライブをしたりしている。	○	冬場は外出の機会が少なくなるため、車で出かけて気分転換出来る場所を探し、利用者の希望に添って外出の機会を増やしていくことを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を徹底し、日中は玄関の鍵をかけずに利用者の外出を察知して声をかけて一緒について行く等、安全面に配慮しながら、利用者の自由な暮らしを支えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、消防計画を作成し「非常事態避難マニュアル」に基づき、避難経路の確認を行いながら、利用者と共に年2回の避難訓練を行っている。	○	現在はお隣の方に訓練の協力をお願いしているが、今後は運営推進会議等を通して、町内会等に夜間時の避難方法等を相談して、緊急時の協力体制を確立しておくことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日個別に記録し、職員全員が常に意識して、食事やおやつに反映するようにしている。利用者の個々の味の好みや好き嫌い、ご飯の固さ等も考慮して毎日の献立を決めている。	○	現在、毎日の献立メニューと共に食材も記録しているので、記録を基に基本献立を作成したり、定期的に関連施設の栄養士に献立をチェックしてもらう体制作りを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、明るく開放的で、大きな窓から四季折々の風景が見渡す事が出来る。木造の建物に加え、木製の家具も配置されて、自室の延長のような居心地の良さを演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、それぞれの利用者の好みや馴染みの家具やベットが用意され、居心地の良い場所となっている。カーペットやカーテン、椅子も利用者の好みで生活スタイルに合わせて用意し、細やかな配慮がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。